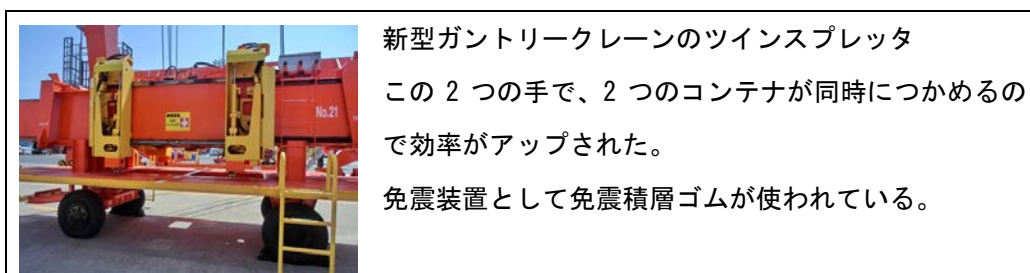


調査報告書

- 1 とき：2012年5月11日
- 2 行先：鍋田ふ頭名古屋ユナイテッドコンテナターミナル、
飛島ふ頭・コンテナターミナル(TBC)
- 3 参加者：山口清明、政務活動補助員(浜田)
- 4 主な内容
 - ① 鍋田ふ頭名古屋ユナイテッドコンテナターミナル
 - ・ 2000年に設立された管理運営会社で、9社で構成されている。
 - ・ 面積は第1～第3バースで492,500㎡、全体で752,500㎡
 - ・ 取扱量は2005年767,802TEU、2011年1,012,419TEUと増えている。
 - ・ 大水深高規格コンテナターミナルとして、名古屋港の1/3を取り扱っている。
 - ・ 第2ヤードの耐震強化岸壁とガントリークレーン、液状化対策コンテナヤードを視察した。
 - ・ 避難所は今夏までに構内に2ヶ所つくる予定。



② 飛島コンテナ埠頭(TCB)

- ・ 日本初の自動化コンテナターミナルとして、2005年開港し、2008年にさらに進化した第2バースを立ち上げた。
- ・ 管理棟内の遠隔操作室では3人のオペレーターが無人の自動RTGをモニタ映像で遠隔操作していた。遠隔操作の利点は、安全・正確・快適・無駄がないところらしい。ガントリークレーンは遠隔操作の費用対効果が見込めないため有人化されている。



自動化コンテナターミナル



遠隔操作室

- 埠頭の道路は、いつもコンテナを積んだトラックが長い列をつくり渋滞している。津波が来たときの避難方法を明確にし、周知させることが必要だと思う